

工学部 都市環境デザイン学科

不動産マネジメント専攻

School of Engineering
Department of Civil Engineering and Environmental Design
Urban Asset Management

NEW

2009年
4月 新設

都市の資産である“不動産”を有効に活用し、
快適で安心・安全な“まちづくり(＝都市計画)”を実現する。
“まちづくり”を総合的に計画し実施できる専門家を育成。

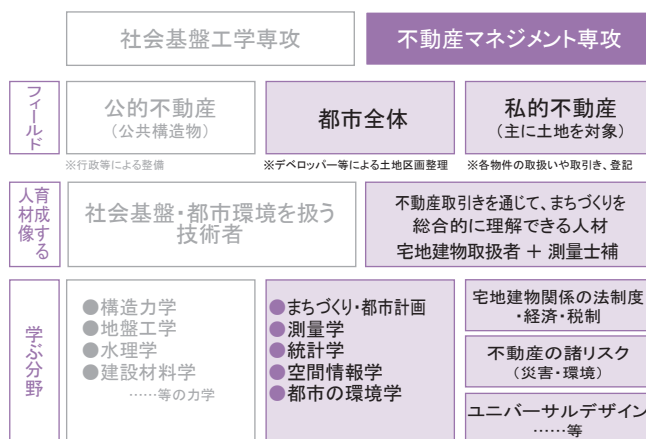
あなたが住む“まち”は、本当に生活しやすい“まち”になっているでしょうか。たとえば、自然災害に強い“まち”ですか、犯罪が発生しにくい“まち”ですか、自然環境は守られていますか。

いま日本全国で、快適で安心・安全な“まち”を目指した都市計画や、再開発プロジェクトが進められています。そして、“まちづくり”に必要な知識や技術を持ち、総合的な視点で計画し実施できる人材が求められています。不動産マネジメント専攻では、法律や経済、住民対応や環境対策、不動産取引や行政手続きを学び、また工学の基礎も身につけ、“まちづくり”の現場で活躍できる専門家を目指します。

Point of Study!

“宅地建物取引主任者”と“測量士補”の資格を取得。

“まちづくり”に求められる知識を学ぶと同時に、現場で求められる資格を得るために、“宅地建物取引主任者”と“測量士補”、2つの資格取得に対応するカリキュラムを実現しました。測量士補の資格は、土地家屋調査士の実地試験が免除されるなど、卒業後のステップアップにもメリットがあります。“まちづくり”の中核となる不動産活用に関わる人材育成を目的にした学科・専攻は、国内では珍しい存在です。



まちづくりの知識と技術を参加型・体験型で学ぶ。

不動産マネジメント専攻では、“まちづくり”に求められる知識と技術を、関係法規から会計基礎、環境政策、測量学などまで体系的に学びます。また「アクティブパース実習」や「都市開発プラン実習」、参加型のまちづくり手法を学ぶ「環境アセスメント実習」など、体験型のカリキュラムを重視していることが大きな特徴です。

活躍が期待される業界と、仕事は、幅広く深い。

“まちづくり”の関係法規や手法を学び、測量など工学の基礎を身につけた人材は、幅広い業界で求められています。都市計画などの主体となる不動産業や建設業、住宅メーカー。再開発事業を主導する地方自治体。最近では、不動産の証券化など、新たな金融手法に対応するために、金融機関でも専門家が求められています。また卒業後に、測量士や土地家屋調査士、不動産鑑定士などの資格に挑戦する道も開けています。

It's a DIT STYLE 1 教授の研究 こたわり

都市機能への評価は、不動産の価値さえ高める。
防災や防犯、景観や交通対策・・・
さまざまな視点で、豊かな“まち”をつくる。



准教授 嶋田 喜昭 博士(工学)

専門分野

交通計画, 地域・都市計画

都市計画の目的は、そこに暮らす人々が“豊か”だと感じられる街をつくること。そのためには、防災や防犯、景観や福祉、あるいはエネルギー効率や社会投資の効率など、さまざまな視点からのアプローチが必要となる。嶋田准教授がいま取り組む交通事故への対策も、その重要なポイントとなる。「いま取り組んでいるのは、抜け道交通への対策です。幹線道路の渋滞を回避して、生活環境は悪くなるし、何より危ない。日本全国で問題になっている現象です」

都市機能への評価は、資産としての評価にも直結する。豊かな“まちづくり”は、不動産の価値も高める。「宅建の資格を持つ人には、法律を学んできた人たちが多くいますね。しかしこの専攻では、“まちづくり”を学んだ上で宅建の資格取得を目指す。

河川水文学の研究データを、
水害に強い都市計画の作成に活かす。
河川を通して考える“まちづくり”の視点。



准教授 鷺見 哲也 博士(工学)

専門分野

河川水文学, 流域水文学

鷺見准教授の研究分野は、河川水文学と呼ばれる分野だ。水文学(すいもんがく)とは、地球上の水の循環を研究する学問。都市計画に重要なデータを提供する役割も担う。

「河川の氾濫や高潮など水害への対応は、都市計画の重要な要素。私たちが作成する水害の被害予測は、たとえばどこに“まち”を作るべきかを考える貴重な資料になります」

鷺見准教授の研究室では、工学的な観点から河川を見るだけでなく、幅広い視点でも河川を考える。

「卒業研究の中で、“まちの中に淵を取り戻す”といったテーマにも取り組んでもらっています。都市の水路はほとんどが暗渠化。つまりフタをされてしまっている。だから、街に淵がないんじゃないかと。水路を開放するためには、どんな手段が考えられるのか、まちがどう生き返るのか、を検討してもらっています。中には、そのヒントとして『まちの原風景』はどうだったのかを調べる学生も……土木工学出身にはなかった驚くような発想が、都市計画や“まちづくり”には必要とされる。これからも学生と一緒に、河川を通して“まち”を考えていきたいと思っています」

It's a DIT STYLE 2 OGの証言

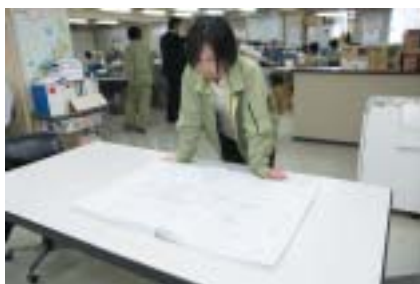
土地が狭くなる、立ち退きをする。
その損失を調査し、積算する。

山本さんが勤務する株式会社新日は、不動産コンサルタント業務や建設コンサルタント業務、測量調査業務を手がける総合建設コンサルタント企業だ。山本さんは、補償調査を担当する。

「都市計画で道路を広くする場合、道が広がる分、誰かの敷地が削られることになります。場合によっては、立ち退きをして新しく住宅や店舗を建ててもらうこともあります。その損失を補うためには、いくらか必要かを積算する。簡単に言えば、それが補償調査です」

都市計画や再開発は、土地や建物の権利を持つ人たちの合意を得られないと一歩も前に進まない。

「私が担当するのは都市計画の一部分ですが、なくてはならない仕事。まちづくりに貢献できている実感があります」



山本さんは、測量士と補償業務管理士の資格を持つ。総合建設コンサルタント業は、資格が実務能力を証明する道具となる業界でもある。

都市計画に必要な知識と技術を
総合的に学べる専攻に期待。

「補償調査は、土地や建物だけが対象ではありません。たとえば鶏舎の近くで公共工事があり、その騒音や振動で卵を産まなくなった時には、その調査を……。業務ごとに対象も違い、幅広い知識を求められる仕事でもあります」

調査結果をどう伝えれば、権利者に納得してもらえるか。それを考えるのも山本さんの仕事。いろんな人と接する機会が多い仕事だが、山本さんはそれを楽しんでいる。

「母校に不動産マネジメント専攻ができると聞いて、羨ましいと感じました。都市計画の仕事は、工学だけでなく、たくさんの法律の上で成り立っています。それを総合的に学ぶことができるのだから、多くの後輩が、この世界に入ってくることを期待しています」



総務部 部長 津田 佳宏さん

【採用担当者のメッセージ】

当社には、土木や建築のエキスパートが揃っています。その中心に立ち、業務をコーディネートする役割は、ベテランの技術者が担ってきました。しかし関係法規など幅広い知識を持った人材であれば、早い時期からその役割を任せられるはずと期待しています。ただし、幅広いだけでなく、自分なりにエキスパートの部分は持っていてほしいですね。

都市計画や再開発事業の“補償調査”を担当。
権利者の合意を得られないと、開発は一步も前に進まない。
だから“まちづくり”には欠かせない仕事。

Profile

株式会社新日

補償調査部 第1グループ主任

山本 文子 さん

1997年 建設工学科土木工学専攻卒業

It's a DIT STYLE 3 Message from Teachers



客員教授 坂部 孝夫

PROFILE

1972年、静岡大学大学院農学研究科修士課程農芸化学専攻修了後、愛知県に入庁。環境部、環境調査センター等に籍を置き、一貫して環境行政に携わってきた。1991年からは、企画部航空対策局計画課の環境担当課長補佐として、中部国際空港（セントレア）の開港に向けた環境調査を実施。2007年、愛知県環境調査センター所長を最後に退職。「坂部環境技術事務所」および「坂部行政書士事務所」を開設し、この地域の環境対策にその知識と経験を活かしている。



坂部客員教授は、愛知県庁時代に中部国際空港（セントレア）の環境アセスメントを担当。実習科目で、学生を空港見学に連れ出したこともある。つながりの深さで、一般人は立ち入り禁止の地域にも入ることができた。



愛知県庁時代に手がけた環境アセスメントなど、坂部客員教授の手元にはたくさんの資料がある。大規模プロジェクトが続いた東海地区だけに、環境アセスメントを学ぶ上で環境はいい。

“環境アセスメント”の実施には、幅広い分野の知識と技術が必要。

私はこの専攻で、環境アセスメント実習という科目を担当する予定です。環境アセスメントという言葉は、きっとどこかで聞いたことがあるでしょう。日本語に訳すと、環境影響評価。みなさんの知っている例で言えば、中部国際空港がつくられる時にも実施されましたし、愛地球博の時にも、もちろん実施されました。

1997年の環境影響評価法の制定で、対象となる開発行為を行う時には必ず環境への影響を調査し、地域の合意を得ることが求められています。また法律や条例の対象にならない開発でも、環境への影響を調査し合意を得るという環境アセスメントの考え方は、今や必須のものと言ってもいいでしょう。

では環境アセスメントに携わる人間には、どんな知識や技術が求められるのでしょうか。まず、調査を計画できる能力。次に、調査結果を評価する能力。そして、住民に説明をし合意を得る能力。これらの能力を身につけるためには、法学、工学、化学、生態学など、自然科学、社会科学全般にわたる幅広い分野の知識が必要となります。

中部国際空港の環境調査を担当。現場で感じた本音を伝えたい。

私は愛知県庁で36年間、環境政策に携わってきました。中部国際空港の建設時には、環境担当課長補佐という立場で環境アセスメントを担当しました。国の要望を、どうにかみ砕いて住民に伝えるのか。調査結果を説明し、どう漁業者の合意を得るのか。調査を実施することだけが仕事ではなかった。環境アセスメントに携わる人間には、幅広い分野の知識が必要となる……という考えは、現場で苦闘してきた私の言わば本音です。

だからこそ、私は不動産マネジメント専攻という新しい学び方に大きな期待を持っています。法律を学び、工学の基礎や測量を学び、まちづくりに必須のさまざまな手法を学ぶ。私は技師として環境政策に携わりはじめ、その後に法律関係や住民対応などの知識を身につけてきましたが、この不動産マネジメント専攻では、大学の4年間で多様性のある人材を育てられると信じています。

図面が読める、調査を計画できる、結果を理解できる、住民に伝えられる、合意をまとめられる。環境アセスメント実習で身につけてほしい能力は、幅広い分野で活かされるはずです。公共的な施設に限らず、個人の不動産であっても、土地を動かす、あるいは手を加える時には、周辺環境や自然環境に配慮した上で合意を得ることが、現在では強く求められています。広い意味で“まちづくり”に関わる業界は、総合的に理解しコーディネートする人材を必要としています。

It's a DIT STYLE 3 Message from Teachers



客員教授 弁護士 高橋 太郎

PROFILE

1977年、名古屋大学法学部法律学科を卒業し、愛知県に入庁。農林部林務課、耕地課、農地管理課の勤務を経て、1988年司法試験に合格、司法修習生となる。1995年、「高橋太郎法律事務所」を開設。2005年からは、愛知学院大学大学院法務研究科特任教授も務める。地方自治体の委員会等での活動は多数。2004年からは、愛知県三好町まちづくり審議会の副会長に。不動産マネジメント専攻では、「民事紛争論」「環境法規」の講義を担当予定。



高橋客員教授は、弁護士として不動産関係の案件をいくつも解決してきた。得意とする分野は、不動産関係の他にも、行政訴訟や情報公開、個人情報保護など。法律関連の書籍も、多数執筆している。

“測量の技術”と“法律の知識”は、“まちづくり”に必須の実力。

“測量士補”と“宅地建物取引主任者”の資格取得を目指す一つまり、“測量の技術”と“法律の知識”を同時に身につけるという学び方は、もしかするとみなさんにはピンと来ないのかもしれませんが。しかし不動産に関わる時には、まさしくその2つの技術と知識が必要なのです。なぜなら、たとえば土地を売る時には、必ず測量から始まります。測量によって境界を特定した上で、売買契約を結ばないといけないわけですから。

私は弁護士になる前、11年ほど愛知県庁に勤めていました。その間の約6年間、農用地の土地改良事業、国土調査法に基づく地籍調査事業に携わっていました。この事業は、まさに土地を扱う仕事です。関係法規の知識と、図面を読む技術がないと、何も始まらない。法学部出身の私は測量の勉強に励み、法律と実務、測量の知識を必要とする土地改良換地士の資格を取得しました。

測量および不動産の表記に関する登記を行う専門家である“土地家屋調査士”という資格があります。測量士補の資格を持っていれば測量に関する実地試験を免除されるので、みなさんが卒業後に目指す資格のひとつでしょう。また“再開発プランナー”という資格もあります。これは再開発事業などで、権利調整や事業計画作成などを行う知識と技術を有するものに与えられる資格です。再開発事業を手がけるためには、測量に基づいて図面を作成し、その上で“まち”をデザインすることが必要です。

これらの資格が示すように、“測量の技術”と“法律の知識”を身につけることは、不動産を取り扱う、都市計画や再開発に携わるためにとても重要なことなのです。

民事紛争論の講義を通じて調整する能力を養ってほしい。

私が講義を担当する“民事紛争論”では、不動産取引や都市計画、再開発事業などで起こることが予想されるトラブルの“予防と対策”を学びます。たとえば土地取引トラブルが起こった時の解決手段や、開発に対する住民運動が起こってしまった時の対処方法などを具体的に展開していきます。

私はロースクール（法科大学院）の特任教授も務めていますが、そこで重視しているのが“交渉の技術”です。大規模な開発になれば、権利関係者が多数になります。それぞれの権利を調整するのは、複雑な多元方程式を解くようなもの。都市計画や再開発など“まちづくり”に携わる人間にとって、交渉する技術は不可欠。“民事紛争論”や“参加型まちづくり手法”などの講義を通じて、物事を調整する能力を養ってほしいと思います。

It's a DIT STYLE 4 Topics!!

宅建と測量士補のダブルライセンスを入口に、 不動産のプロを目指してください。

不動産という言葉に、売買や賃貸などを思い浮かべる方が多いかもしれませんが、しかしそれは、“不動産”に関する一部分でしかありません。不動産の総合シンクタンクを目指す当社では、鑑定評価、再開発コンサルティング、公共工事の補償業務など、不動産に関わる業務を幅広く手がけています。

大同工業大学に不動産マネジメント専攻が新設されることは、不動産の専門家集団である当社にとっても期待すべき出来事です。宅地建物取引主任者と測量士補のダブルライセンスを目指すという方針は、不動産の現場を良く知る方の発想だと感じています。

私事で恐縮ですが、私も大学1年の時に宅建の資格を取り、1年留年はしましたが在学中に不動産鑑定士の資格を取得しました。当時は、生活の基盤になる資格を……という想いでしたが、業務に携わるうちに“夢のある仕事”を手にしたと実感することができました。

不動産のプロになるという意識を強く持てるのなら、宅建と測量士補を入口に、ぜひ不動産鑑定士の資格にも挑戦してください。難関の資格ではありますが、目指す価値は大いにあるはずです。不動産マネジメント専攻での4年間の学びは、きっと不動産のプロになる土台となるでしょう。



株式会社谷澤総合鑑定所
中部支部支社長
不動産鑑定士
西村 邦広 さん



Point of Study!

VR (バーチャルリアリティ) を用いた 都市再開発の演習



都市の再開発によって景観がどのように変化するかを分かりやすく伝えるため、3次元VRソフトウェア『UC-win/Road』によって、名古屋駅前の再開発後の景観シミュレーションを行ったものです。この他、交通環境の影響等を分析することにより再開発事業の検討・評価を行います。

カリキュラム

	1年次		2年次		3年次		4年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
専門基礎科目群	線形代数Ⅰ 基礎物理Ⅰ 化学Ⅰ 基礎数学同演習 確率統計学 空間情報読解基礎 情報リテラシ	線形代数Ⅱ 会計学基礎Ⅰ	会計学基礎Ⅱ	環境学基礎 応用数学	空間情報処理	応用情報処理		
専門科目群	まちづくり関係法規 環境生態学 都市環境プロジェクト 都市環境デザイン実習 形と力	都市環境プランニングⅠ GIS基礎 環境地質学 都市環境プロジェクト実習 ランドスケープデザイン実習	都市計画 不動産と民法 アクティブパース演習 環境法規 測量学Ⅰ 測量実習 土と地盤	都市環境プランニングⅡ 交通計画 演習 宅建業法 都市デザイン演習 不動産鑑定論 測量学Ⅱ 環境マネジメント	宅建演習 都市開発プラン実習 まちづくりの経済学 環境政策論 環境アセスメント実習 環境質実験 道路デザイン 建設マネジメント	まちづくり工学 参加型まちづくり手法 水文学 環境地盤工学 都市衛生工学 都市防災工学 技術者倫理	輸送システム論 民事紛争論 水環境管理 道路デザイン実習 維持管理学 技術英語 세미나 卒業研究	
人間科学科目群	基礎英語Ⅰ 基礎英語Ⅱ 総合英語Ⅰ 総合英語Ⅱ 多元英語Ⅰ 多元英語Ⅱ 実用英語Ⅰ 実用英語Ⅱ 国文学Ⅰ 国文学Ⅱ 応用心理学Ⅰ 応用心理学Ⅱ 法学Ⅰ 法学Ⅱ 外国文学Ⅰ 外国文学Ⅱ 哲学Ⅰ 哲学Ⅱ 政治学Ⅰ 政治学Ⅱ 心理学Ⅰ 心理学Ⅱ 社会学Ⅰ 社会学Ⅱ 健康科学Ⅰ 健康科学Ⅱ 認知科学Ⅰ 認知科学Ⅱ 経済学Ⅰ 経済学Ⅱ 教育原理 教育社会学 教育心理学 健康科学演習Ⅰ 健康科学演習Ⅱ 言語表現法演習 教職総合演習							

※科目については変更の可能性があります

想定される進路

計画デザイン系の展開科目

○都市環境プランニング ○都市計画
○交通計画 ○まちづくり工学
○輸送システム論 ○まちづくり関係法規
○GIS基礎 ○不動産と民法 ○宅建業法
○宅建演習 ○民事紛争論
○アクティブパース演習
○都市デザイン演習 ○都市開発プラン実習
○参加型まちづくり手法 ○不動産鑑定論
○まちづくりの経済学

環境ビジネス系の展開科目

○環境法規 ○環境政策論
○環境アセスメント実習 ○水文学
○環境地質学 ○環境地盤工学
○環境生態学 ○環境質実験
○都市衛生工学 ○水環境管理

デザインマネジメント系の展開科目

○都市環境プロジェクト
○都市環境プロジェクト実習
○測量学(特)・(監) ○測量実習
○道路デザイン ○道路デザイン実習
○都市防災工学 ○都市環境デザイン実習
○ランドスケープデザイン実習
○環境マネジメント ○建設マネジメント
○維持管理工学 ○形と力 ○土と地盤

活躍できる業界

○不動産業、不動産関連業 ○建設業 ○運輸業 ○金融機関 ○中央官庁、公社・公団、地方公共団体 など

目指せる職種

○測量士 ○宅地建物取引主任者 ○再開発プランナー ○土地家屋調査士 ○不動産鑑定士 ○都市環境デザイナー
○公害防止管理者 ○環境アセスメント調査員 ○GISオペレーター ○住宅メーカー営業 など

取得を目指す資格

● は、キャリアセンターで対策講座を開講しています

測量士 (受験資格は測量士補取得後、実務経験1年以上)

測量士補 (卒業後、申請により取得)

技術士 (一次試験合格し、実務経験4年以上)

技術士補 (共通科目免除)

建築士 (受験資格は卒業後、実務経験1年以上(2級)、2年以上(1級))

環境計量士

公害防止管理者

土木・建築・造園・管工事施工管理技士

(受験資格は卒業後、実務経験1年以上(2級)、3年以上(1級))

コンクリート技士 (受験資格は卒業後、実務経験2年以上)

土地家屋調査士 (測量士(補)、1・2級建築士は2次試験免除)

再開発プランナー (受験資格は卒業後、実務経験3年以上)

宅地建物取引主任者 ●

福祉住環境コーディネーター (2級、3級) ●

高等学校教諭第1種(数学)(工業)

中学校教諭第1種(数学)